



# 芝山小だより



7月号  
清瀬市立芝山小学校  
校長 寺井 俊敬  
<http://www.kiyose.ed.jp/>

## 自分を好きになる

目次

副校長 本間 章郎

向暑の候、梅雨の晴れ間には子供たちが元気に外で遊び、校庭の芝生は青々として、まっすぐに育っています。

さて、今回は、あるパラリンピアンの方を招いて講演会をしていただいた時の話を紹介します。

その方は、パラリンピック陸上競技日本代表の鈴木徹さんです。鈴木選手はパラリンピック陸上「走り高跳び」競技の第一人者として活躍されていて、自己最高記録の2 m 0 2 cmは現在でも出場クラスの日本記録であり、アジア最高記録でもあります。

鈴木選手は、元々はハンドボール競技の選手でした。高校の全国大会でも優秀な成績を納め、将来のハンドボール日本代表選手として、多くの方々から期待をされていました。しかし、大学に進学する直前、車での交通事故を起こし、右足の膝から下を失ってしまいます。ハンドボールコートの中を誰よりも速く、自由に走るといふ、これまで当たり前に行っていたことは、もうできなくなってしまいました。「なんでこんなことに…」大きな喪失感と将来への不安で、鈴木選手はとても苦しみました。

鈴木選手が病院の施設で少しずつ歩く訓練をしていた時、義肢装具士である臼井二美男さんに出会います。義肢とは、事故などが原因で失った手や足の代わりになるよう、身に付ける装具で、日々の生活を助けてくれる器具です。それから鈴木選手は賢明なりハビリ生活を送る中で、陸上競技の走り高跳びに挑戦することを決めます。スポーツ用の義足を着けて、歩くことから走ること、そして跳ぶことへ、少しずつ少しずつ再び競技スポーツができることを願い、一生懸命に日々努力を重ねました。そして、日々の努力と多くの方々の支えにより、再び運動ができるようになった鈴木選手は、1年後、走り高跳びの選手として、日本を代表する選手になりました。

鈴木選手は講演会の最後に、こう話してくれました。

「私は交通事故で右足の一部を失いました。そのことは周りの人と比べると大きな違いでもありません。しかし、その違いを受け容れ、自分ができることを一生懸命にやろうと思いました。みなさんも、時に周りの人と自分を比べることがあるかも知れません。そして、その違いに悩んだり落ち込んだりすることがあるかも知れません。でも、誰にでも、その人なりのよさが必ずあります。だから、みなさんには、今できることを一生懸命に取り組んで自信をもってほしい。そして、**今の自分を好きになってほしい。**」

芝山小学校の子供たち一人一人にも大切なよさがあります。「自分を好きになる」その気持ちをもって学校生活を送ることができるよう、これからも教職員一同、子供たちを支えて参りたいと思います。